市民フォト
ふくしま夢つうしん
Fukushima yume-tsushin
福島市
No.25
2016年 3月号

東日本大震災復興事業

フェルメールとレンブラント

17世紀オランダ黄金時代の巨匠たち 展

4月6日～5月8日に、東日本大震災復興事業として、福島県立美術館で「フェルメールとレンブラント17世紀オランダ黄金時代の巨匠たち」展が開催されます。日本初公開となるフェルメール≪水差しを持つ女≫や、レンブラント≪ベローナ≫など、オランダ絵画の名作が一挙に来日します。この機会に、世界の名画をぜひご堪能ください。

問／福島県立美術館 ☎024-535-0770

■と　き／**4月6日**[水] **～5月8日**[日]
午前9時30分～午後5時（入場は午後4時30分まで）
※4月10・23・30日、5月7日は開館時間を午後7時まで延長します（入館は午後6時30分まで）。

■**休館日／月曜日**
※5月2日(月)は開館します。

■**ところ／福島県立美術館**（福島市森合字西養山1）

■**前売券発売について／販売中**
※販売場所など詳しくは、ホームページまたは県立美術館までお問い合わせください。

料金	観覧料金（税込み）	一　般	大学生	高校生
	当　日	1,500円	1,100円	800円
	前売券／団体券	1,300円	900円	600円

※中学生以下は無料。
※福島県内の高校生は学校での手続きで観覧料が免除されます。詳しくは各学校にお問い合わせください。
※団体は20人以上。
※展覧会の観覧料で福島県立美術館の常設展も併せて鑑賞いただけます。
※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方は常設展・企画展ともに無料（それぞれ第1種または1級の場合は付き添いの方1人も無料）。

福が満開、福のしま。
『福が満開、福のしま。』
福島県観光キャンペーン2016
特別企画

ヨハネス・フェルメール≪水差しを持つ女≫
1662年頃　油彩・カンヴァス45.7×40.6cm
メトロポリタン美術館、ニューヨーク
Marquand Collection , Gift of Henry G. Marquand, 1889(89.15.21)
Photo Credit: Image copyright © The Metropolitan Museum of Art.
Image source: Art Resource, NY

福島県立美術館へのアクセス方法

■電車／JR福島駅東口より福島交通飯坂線「美術館図書館前」下車徒歩2分
■バス／JR福島駅東口より福島交通バス「福島市内循環ももりん2コース」で「県立美術館入口」下車徒歩3分

花見山へのアクセス方法

JR福島駅東口発着の臨時バス「花見山号」をご利用ください。
■期間／4月2日(土)～29日(金･祝)　毎日運行
※開花状況により変わる場合があります。
■時間／午前9時～午後4時30分（約20分に1本の間隔で運行）
■運賃／（片道）大人250円、小人130円

CONTENTS

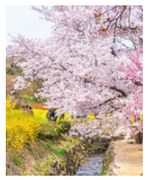
2 福島の観光
「山笑ふ」
花見山の色とりどりの花たち

4 ふくしまの魅力人 ―第10回―
ふくしま女性起業研究会3代目会長
渡辺美紀子さん

6 福島の文化
「未来を生きる子どもたちへつながる福島の伝統文化のバトン」
●伝統文化みらい協会

8 インフォメーション
●「フェルメールとレンブラント 17世紀オランダ黄金時代の巨匠たち」展

表紙紹介　「人々を魅了する花見山」



表紙説明：
昨年は25万人以上の観光客が足を運んだ花見山。福島市渡利地区の花木生産農家によって育てられた、数えきれないほどの種類の花が咲き誇り、朝･昼･夕で違った表情を見せてくれます。何度見ても圧巻の花見山に、皆さんぜひ一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

市民フォト・ふくしま夢通信
平成28年3月1日 発行　No.25　2016年 3月号
http://www.city.fukushima.fukushima.jp/

編集発行　福島市役所 広報広聴課
〒960-8601 福島市五老内町3-1
☎024-525-3710　FAX024-536-9828
E-mail : kouhou@mail.city.fukushima.fukushima.jp

ホームページもご覧ください　福島市　検索　クリック
YouTube（ユー・チューブ） チャンネル ふくしまチャンネル
twitter（ツイッター） アカウント fukushimacity
Facebook（フェイスブック） アカウント 福島市

撮影／市民カメラマン 中山真波さん

福島の観光

山笑ふ

花見山の色とりどりの花たち

―やまわらふ―

俳句に「山笑ふ」という春の季語があります。「草木は萌え、花は咲き、鳥はさえずり、山全体が新しい命の芽吹きで満たされる」という意味です。4月になると、花見山周辺はまさに「山笑ふ」季節を迎えます。写真家の故秋山庄太郎さんが「福島に桃源郷あり」と形容し全国に紹介した花見山周辺を皆さんもこの春、訪れてみてはいかがでしょうか。

花見山周辺地域が他のお花見スポットと違う点は、さまざまな花の競演に出会えることです。トウカイザクラ、ソメイヨシノを中心とした約10種類のサクラをはじめ、黄色いレンギョウ、真っ赤なボケ、白いモクレン、桃色のハナモモなど、さまざまな色の花が咲き誇ります。これだけたくさんの種類の花が山を染める光景は、見る者を圧倒します。

今年も、花見山がどのような美しい景色を見せてくれるのか、楽しみです。

※アクセス方法については、裏表紙をご覧ください。

問 福島市観光コンベンション推進室
☎024-525-3722

ふくしまの魅力人（みりょくびと）

女性農業者の視点を大切に、人と人をつないで福島の未来を豊かにしたい

1980（昭和55）年、結婚を機に農業の道へ。養蚕（ようさん）農家から果樹農家へ転換を決めた夫と共に、さまざまな困難を乗り越えてきた渡辺美紀子さん。夫婦で手塩にかけた農産物の販路開拓と拡大につなげるべく、農家の女性たちと共に「ふくしま女性起業研究会」で異業種や消費者との交流、農業体験受け入れなど、積極的にチャレンジしてきた渡辺さんに、仲間の大切さ、女性の視点で捉える農と食の魅力などを伺いました。

農業従事者という自覚と誇りに目覚めた海外研修

渡辺美紀子さんが3代目会長を務める「ふくしま女性起業研究会」（会員数21人）は、市内の農家の女性たちが農産物の加工や販売方法などを学びながら起業の可能性を探ろうと立ち上げた会です。「女性農業者が広範囲に集まる会というのは、それまで無かったのでみんな喜びました。集まってくる情報も多種多様。私自身、世界がグンと広がりました」。中でも目からウロコだったのは、海外研修です。行き先はドイツとイタリア。「女性だけでワインを醸造している会社を見学しました。研修先で出会った皆さんの農業に対するプライドが全然違い、とても刺激になりました」

平成14年から始めた事業「出前教室請けたまわります」は、活動拠点がないなら出掛けて行こうという発想の転換から生まれ、郷土料理やスイーツなど、材料持参で学校や学習センターに出向き、作り方を伝えました。ほかにも温泉旅館との交流や首都圏の子どもたちの農業体験など精力的に活動を続けていると、福島県や福島市からイベントなどに声が掛かるようになりました。

◀視察研修

▶東京都荒川区の春まつりで福島市をPR

仲間の存在が気持ちを立て直し復興を押し進める原動力に

誇りを持って「農」と「食」をスキルアップさせて行こうと思っていた矢先、東日本大震災が起きました。「放射能の風評で福島産の農作物が全然売れなくなった時は絶望しかなかった。でも、みんなが同じ境遇の中、本音で語り合える仲間の存在は大きかったですね。震災を機に絆がさらに強くなりました」。以来、渡辺さんたちは、年2回開催している研修と、福島の元気を届けるさまざまなイベント協力を会の事業として取り組むようになりました。

主催者として福島県と共に名を連ねる「女子農力向上委員会」もその一つです。「稲刈りなどの農業体験をしてから、米粉蒸しパンや米粉クレープなどを食べると『こんなにおいしいもの、初めて食べました』とみんな口をそろえて言います。農業の大変さ、作ってる人の気持ちを実際に体感することで、味わいを深くしているんだと思います」

▲農業体験で稲刈りやリンゴの葉摘みを体験する学生の皆さん

極める男性農業者。食品加工でさらなる美味を作る女性農業者

食べることに直結する農業従事者として渡辺さんは「これからも女性農業者ならではの視点を大切に、農と食を通して、人と人、地域をつないでいきたい」と話します。「職人気質で極めるのが男性だとしたら、可能性を広げるのが女性。夫が極めたリンゴを使ってピューレ、アップルパイと消費者目線で広げていく力を持っているのが私たち。両者が一体となる福島の農産物と加工品の魅力をもっと多くの人に知らせていきたいです」

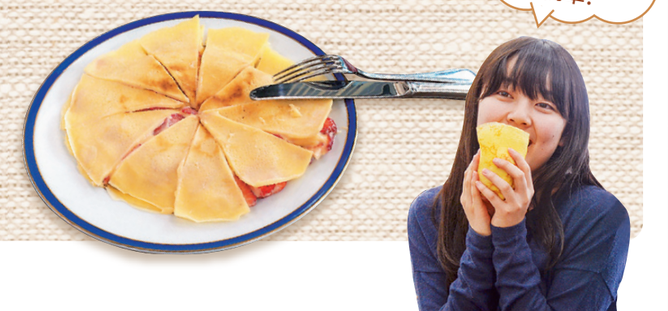
▲女子農力向上委員会のメンバーと米粉を使ったクレープを作り、おいしさを体感

米粉のクレープ

Recipe

●クレープ生地の材料●

米粉80g、片栗粉10g、砂糖20g、卵2個、サラダ油40cc、牛乳200cc、バニラエッセンス少々



材料を混ぜて焼くだけなので簡単！

夫・善一さんと協力し夫婦で渡辺農園を経営する渡辺さん

ふくしま女性起業研究会
3代目会長

渡辺（わたなべ） 美紀子（みきこ）さん

Mikiko Watanabe PROFILE

1956（昭和31）年、福島市立子山生まれ。同市松川町在住。夫と義母の3人家族。夫婦で経営する「渡辺農園」の規模は、モモ、リンゴ各80アールと、田んぼが60アール。果樹栽培には、安心・安全・おいしい「ステビアハーブ農法」を取り入れている。農閑期の冬の仕事として渡辺農園加工所「くわんしょ」を立ち上げ、自家米を使ったモチモチ米粉の菓子製造販売なども行っている。

福島の文化

未来を生きる子どもたちへつながる 福島の伝統文化のバトン

次世代に日本舞踊の文化を継承しようと思ったきっかけは、文化庁委嘱事業「伝統文化子ども教室」の1つとして平成17年からスタートした日本舞踊の教室でした。教え子たちによる「福島里の子会」の活動が、東日本大震災を機に福島ＰＲ活動の一翼を担い、さらには「民俗芸能バンク」を始めるまでに成長した軌跡について、「伝統文化みらい協会」の花柳沙里樹さんに伺いました。

子どもたちの『日本舞踊をやりたい！』という声で続いた「福島里の子会」

高校時代から日本舞踊を始め、現在は師範として、子どもたちに日本舞踊を教える花柳沙里樹さん。「活動当初は礼儀作法を教えるに留まっていた「福島里の子会」も、子どもたちの『まだまだ日本舞踊をやりたい！』という声から、日本舞踊を本格的に教えはじめ、毎年新しい生徒を迎えながら活動を続けて10年が経ちました」と、これまでの活動を振り返ります。

「どんどん練習を厳しくしていきましたが、子どもたちは辞めることなく、日本舞踊を通して成長しています。特に舞台で多くのお客さんに見てもらうたびに、大きく成長しています」

震災を経てさらに活発になる活動と強くなる子どもたち

震災前まで福島で続けていた夏の日本舞踊合宿。震災直後は岡山大学の学生ボランティア「おかやまバトン」の方々の好意により、岡山で行うことになりました。岡山の合宿では、ボランティアの方々の善意に対して、精一杯の踊りでお返ししました。こうして震災後も練習を積み重ねた子どもたちは、震災から2年後の新舞踊民謡全国大会に出場し、見事文部科学大臣賞を受賞。平成23年に続く2度目の第一位に輝きました。

震災から約3年後、花柳さんは「福島里の子会」を、社会貢献の一翼を担う組織にしたいという想いから、セーブ・ザ・チルドレン監修の元「一般社団法人 伝統文化みらい協会」を設立しました。環境が整うと、高校生・大学生に成長した生徒たちは、これまで以上に主体的に、明るく元気な福島を発信。5年間お世話になった「おかやまバトン」の活動をつなごうと「ふくしまバトン」を立ち上げ、支援される側から、支援する側へと変わり始めました。

福島の民族芸能の未来を救う「ふくしまバトン」

2016年、「ふくしまバトン」は、高校生を中心に津波と原発事故で避難を余儀なくされている地域を中心に、古くから伝わる民俗芸能を残していく活動「民族芸能バンク」を始めることになりました。「民俗芸能も日本舞踊も今、子どもたちにバトンを渡さないと未来に残せません。変えていい部分はどんどん変えたらいい。若者を信頼し、委ねることによって、学びたい、伝承したいという情熱が内側から湧き上がってくる環境づくりこそ、大人の役目だと思います」と話す花柳さん。「身体で覚えたものは忘れない」、「文化も自分のもの」として伝統文化を受け継ごうとしている若者たち。その目には、はるか未来を生きる子どもたちにバトンを渡すのも自分の役目という強い意志があります。

子どもたちと共に、文化で人の心がつながる事を夢見て

▶子どもたちに日本舞踊を教える花柳さん

伝統文化みらい協会 理事長
花柳（はなやぎ） 沙里樹（さりじゅ）さん
福島市生まれ。花柳流日本舞踊師範

1 第3回ふくのさと祭りで踊りを披露する子どもたち
2 7 練習風景
3 昨年6月のハワイ公演
4 第3回国連防災世界会議関連事業で各国の代表との交流
5 山車フェスタで舞う子どもたち
6 ドイツの高校生たちと日本舞踊を通しての交流
8 第2回ふくのさと祭りで踊りを披露する子どもたち
9 「Live!スマイルふくしま」での披露

▲花柳さんに日本舞踊を教わる教え子たち

伝統文化みらい協会 4期生
沼崎（ぬまざき） なな香（こ）さん

小学３年生のときに、友達の発表会を見て始めました。それまでやっていた習い事は続かず、すぐ辞めてしまいましたが、日本舞踊だけは楽しく続けることができました。先生はすごく厳しい時もあるけど、いつも私たちのことを考えてくれている最高の師匠です。先生がいなかったら、今の私もいません。昨年６月はハワイで日本舞踊を披露しました。今年３月はロンドンの東日本大震災メモリアル・イベントで踊る予定です。将来の夢は日本舞踊を世界に広めることです。